

温室効果ガス排出権共同購入プール(GG-CAP)からの
CO₂クレジット購入量の増量について

当社は、地球温暖化対策の一環として、兼ねてより温室効果ガス排出権共同購入プール(Greenhouse Gas Credit Aggregation Pool: GG-CAP)に参加しており、2012年までに360万トンのCO₂クレジットを獲得することとしていましたが、このたび、購入量を300万トン増量し、合計660万トンとしました。

GG-CAPは、開発途上国や東欧における温室効果ガス排出削減プロジェクトから生じるCO₂排出削減量(クレジット)を、先進国の企業が共同で購入するもので、運営・管理には排出権売買の仲介に実績を持つナットソース社の100%出資子会社であるナットソース・アセット・マネジメント社があたります。

当社は、GG-CAPを通じて、開発途上国の温室効果ガス排出削減プロジェクトの開発普及を促し、地球規模での温暖化防止に寄与できるものと考えています。

当社は、従来から、環境問題への取り組みを経営の最重要課題の一つと位置付け、地球温暖化問題については、島根・上関両原子力発電所の建設推進、火力発電所の熱効率向上やLNGの利用拡大など、様々な対策に積極的に取り組んでいます。

また、国際的な取り組みとして、世界銀行の炭素基金(注1)、日本温暖化ガス削減基金(注2)や豪州における植林プロジェクト(注3)に参加しています。

今後も、企業の社会的責任遂行の観点から、温暖化防止に向けた積極的な取り組みを展開してまいります。

<添付資料>

- 別紙1 … GG-CAPの概要
- 別紙2 … 中国電力の地球温暖化問題への主な取り組みについて

以上

(注 1) 世界銀行の炭素基金 (Prototype Carbon Fund: PCF)

世界銀行が 2000 年に設立。出資者から集めた資金を開発途上国や東欧等で行う温室効果ガス削減プロジェクトに投資し、CO₂クレジットを出資者に配分するしくみ。当社は 700 万ドルの出資により、約 140 万トンの CO₂クレジットを獲得する見込み。

(注 2) 日本温暖化ガス削減基金

日本初の炭素基金。国際協力銀行、日本政策投資銀行、およびその他の日本企業が 2004 年 12 月に設立。当社は 300 万ドルの出資により、約 40 万トンの CO₂クレジットを獲得する見込み。

(注 3) 豪州植林プロジェクト

当社は、豪州のビクトリア州において、1999 年から 2008 年までの 10 年間で 1,000ha を目標に、放牧跡地等でユーカリを植林している。これにより、年間約 3 万トンの CO₂ 吸収が見込まれる。

GG-CAPの概要

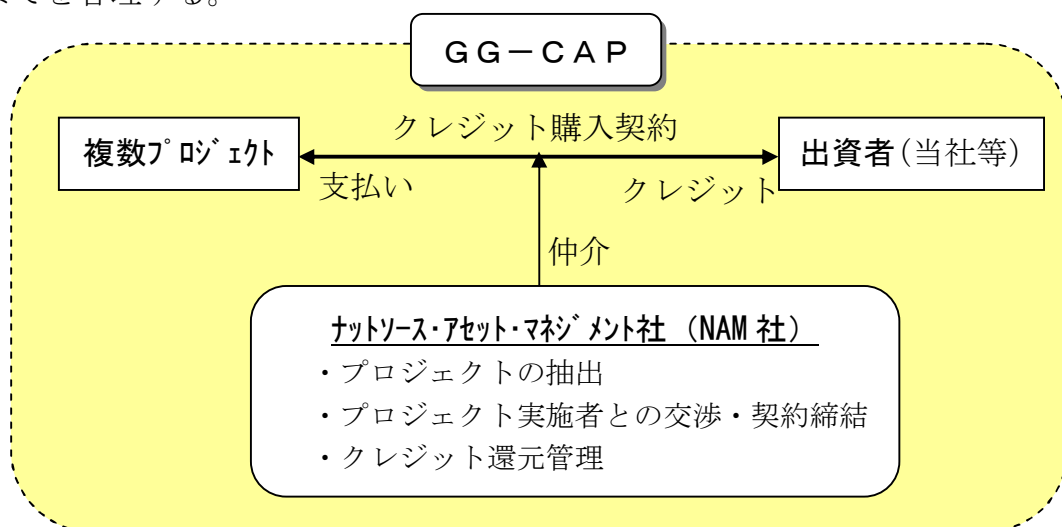
【GG-CAPの概要】

期 間	2005年2月28日～2013年7月31日（約8年間）
プール規模	4.55億ユーロ（約630億円※）
運営会社	ナットソース・アセット・マネジメント社 （ナットソースがGG-CAP運営のために設立した100%出資子会社）
当社のクレジット購入量	660万t-CO ₂ （当社2004年度CO ₂ 排出量（3,934万トン）の約17%に相当）
投資対象プロジェクト	開発途上国や東欧における温室効果ガス削減プロジェクト （例：小規模水力発電，ゴミ埋立地メタン回収）
主な特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・複数プロジェクトからの購入によりリスクを低減できる ・規模が大きいため，低価格クレジットが期待できる

※ 1ユーロ=140で計算。

【運営形態】

GG-CAPとは、CO₂クレジットに関する専門知識を有するナットソース社の子会社、ナットソース・アセット・マネジメント社が運用するシステム。ナットソース・アセット・マネジメント社は開発途上国や東欧における温室効果ガス削減プロジェクトの中から優良案件を抽出し、出資者の代理人としてプロジェクト実施者とのCO₂クレジット購入契約締結から出資者へクレジットが還元されるまでを管理する。



中国電力の地球温暖化問題への主な取り組みについて

当社は、「中国電力環境行動計画」において地球温暖化問題への対応を掲げ、CO₂などの温室効果ガスの排出削減に積極的に取り組んでいます。主な取り組みは以下のとおりです。

- ① CO₂を排出しない原子力発電の推進
 - ・ 島根・上関両原子力発電所の建設推進
 - ・ 原子力発電所の設備利用率向上（定格熱出力一定運転等）

- ② 火力発電所の熱効率向上
 - ・ 従来方式より熱効率の高い、加圧流動床複合発電方式（大崎発電所）および超々臨界圧発電方式（三隅発電所）の導入

- ③ LNGの利用拡大
 - ・ 石油・石炭などの化石燃料に比べてCO₂排出量の少ない、LNGの利用拡大（LNGへの燃料転換：水島発電所3号機2006年4月、同1号機2009年4月予定）
 - ・ LNGコンバインドサイクル発電方式（柳井発電所）の導入

- ④ 国際的な取り組みへの参画
 - ・ 世界銀行の炭素基金（PCF）
 - ・ 日本温暖化ガス削減基金
 - ・ 温室効果ガス排出権共同購入プール（GG-CAP）
 - ・ 豪州における植林プロジェクト

【中国電力の地球温暖化対策 一覧】

